

令和6年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・**最終**)

音戸中学校区 校番 27 学校名 音戸小学校

a 学校教育目標	〈小中一貫教育目標〉 ふるさとを愛し、自律できる 児童生徒の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	〈ミッション〉(学校の使命) 知・徳・体の基礎的な力を身に付け、学校や故郷に誇りと愛情を持ち、感謝・貢献する児童を育む。								
	〈ビジョン〉(将来の学校像) 挨拶と笑顔があふれ、安全・安心な学校 児童が自信を持ち、目標に向けて挑戦する学校 地域・家庭とつながり、信頼される学校を目指す。										
c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	本校では、中学校区で設定した資質・能力の育成を目指し、学力向上については、ICTの効果的な活用を図りながら、考える授業づくり、計画的組織的なスピーチの取組や個に応じた学習環境づくりを推進することで、児童の主体的に学ぶ力、知識・技能及び表現力の向上が見られた。また、心の育成では、あいさつの徹底、縦割り班活動や地域学習の充実を図ることで、児童の自己肯定感や地域への愛着心の向上が見られた。心身の育成では、基本的生活習慣の確立や走力を主にした体力向上の取組を着実にを行うこと、地域や家庭を巻き込む防災教育を推進することができ、一定の成果を挙げた。以上を踏まえ、今年度も、ICTを効果的に活用し、全教職員で、主体的な学びを実現、実践力を高める防災教育の深化、個を大切にしたい支援の充実を図り、児童一人一人が安心して自己の成長を図ることのできる教育実践を研究していく。										
育成すべき資質・能力	「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「協働的に関わる力」「地域の一員として関わる力」										
評価計画(中期経営目標を設定してから 1・2・3 年目)											
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値	10月			2月		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
*** (知) 「前より賢くなった!友達と学び合うことが楽しい」といえる児童の育成 確かな学力		①児童が主体的に課題解決に取り組む授業づくりを進める ②表現力を育成する ③個に応じた学習指導を工夫し、基礎学力の定着を図る	○考える授業づくりの推進 ○課題発見・解決学習の授業研究の実施 ○スピーチの取組 ○個に応じた課題別学習(キュービナの効果的な活用等)、特別支援教育の視点をとり入れた授業づくりの実施	○学期末評価テストの平均点(国・算・社・理) ○県学習意識等調査の質問紙(課題発見・解決学習に関わって) ○スピーチに関する児童アンケート ○個に応じた課題提示や選択に関する意識調査(教職員・児童)	80 85 80 85	81	101	A	83	103	A
** (徳) 「友達大好き・自分大好き・音戸大好き」な児童の育成 豊かな心		④自他のよさを認め合い、自尊感情、自己有用感を向上させる。 ⑤地域の人・もの・ことと関わり、活用し、感謝・貢献する意識を醸成する。	○「あいさつ」の徹底(委員会・学級での取組や研修の実施) ○児童が主体的に考える学級の諸問題に応じた学級活動を各学期に1回以上実施 ○「親切さんありがとうBOX」の活用 ○生活科の学習や総合的な学習の時間の中で、地域への理解を深める。	○挨拶意識調査(児童・保護者・教職員) ○活動の状況調査(教職員) ○「親切さん」を自主的に推薦した児童の割合 ○学習後の振り返り(深まりの感じられる内容を書いた児童の割合)	80 80 70 80	90	112	A	93	116	A
* (体) 「運動大好き・給食大好き・早寝早起き音戸っ子」の育成 健やかな心身		⑥基本的生活習慣の確立を図る。 ⑦児童の運動意欲を高め、体力づくりを推進する。 ⑧児童の防災意識を高める	○「げんきっずカード」による取組 ○くれチャレンジマッチで全学年3種目に取り組み、入賞を目指すことを通して児童の体力向上を図る。 ○「自分の命は自分で守る」防災授業(実践に結びつく授業を学期に1回)	○平日のメディアのきまり1時間以内を守ることができる児童の割合 ○学期に1回チャレンジ週間を決め、全学年、昨年度の記録を10%上回る。8の字とび、ダッシュリレー、シャトルスローリレー ○学期に1回以上実践に結びつく授業を行い、防災安全ファイルに保存していく。	70 85 90	86	122	A	75	108	A
業務改善	教職員が自らの意欲と能力を発揮し、健康でやりがいを持って働くことができる教育環境の整備	⑨児童と向き合う時間の確保	○行事の精選と簡略化、業務の見直し、会議時間の短縮を継続し、教職員が教材研究等に取り組む時間を確保する。	○児童と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合	80	67	84	B	100	125	A
		⑩長時間労働の縮減	○放課後時間の確保(繁忙期) ○週1回(水)の定時退校の推進	○時間外勤務が月45時間以下の教職員の割合	85	69	81	B	74	87	B

【k:評価】
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

